

令和5年度 丹波篠山市地元就職推進委員会 会議録

1 附属機関等の会議の名称

丹波篠山市地元就職推進委員会

2 開催日時

令和5年10月20日（金） 18：30～20：00

3 開催場所

丹波篠山市民センター 研修室5

4 出席委員

樋口 一哉、臼井 和彦、畑 美加、熊谷 拓朗、北田 純、
万年 禮、畑 弘恵、仙林 寛実、井口 祐実、吉見 知晴、
堀井 宏之

欠席委員

塚本 光矢、吉竹 藍、形部 文徳、波部 敦史

事務局

企画総務部長 竹見 聖司、創造都市課長 藤田 尚位、
創造都市課長補佐 小倉 元一、地元就職支援室長 檜皮 恵子
(敬称略・順不同)

5 会議資料

- ・ 次第
- ・ 資料1 丹波篠山市地元就職推進委員会設置要綱
- ・ 資料2 会議の公開について
- ・ 資料3 令和5年度地元就職推進事業について
- ・ 資料4 市内高校における市内事業所への就職状況
- ・ 資料5 令和6年度の事業推進について

6 審議の概要

1. 開会

2. あいさつ

副市長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 自己紹介

5. 地元就職推進委員会について

【事務局】 資料1 説明

6. 委員長・副委員長の選任

委員長の選任について

委員の互選により堀井委員が委員長に就任。

委員長が副委員長を指名し、畑 弘恵委員が副委員長に就任。

7. 報告事項

(1) 会議の公開について

会議の公開について事務局から説明し、他に意見なく、会議録は「A 委員」「B 委員」の表記方式とすることを決定。

(2) 地元就職推進の取り組み状況について

【事務局】 資料2、3、4 説明

8. 協議事項

(1) 令和6年度の事業推進について

【事務局】 資料5 説明

【委員長】 現在行っている取り組みについて事務局説明があった。今年度については、既存の事業に加え、特に LINE 登録者数を増やす取り組みをしていくということだが、来年に向けて、どうい

う取り組みをしたら効果的なのか、ご意見を願います。

現在、市内高校の進路については、7割が進学、3割が就職となっている。就職者のうち3割が市内事業所へ就職している現状である。一旦、進学で地元を離れた方にどのようにして戻ってきてもらうかが、課題となっている。

【A 委員】 私の息子は、中学校を卒業するときは家業を継ぐといていたが、高校2年生の時に職業体験にいき、魅力的な地元の企業に出会い、就職先を決めた。実際に現場に行って体験をすることが大切だと考える。

【B 委員】 LINE 登録者数はどれぐらいか？
また、企業紹介ガイドブックは小中学生には配っているということだが、高校生にも配っているか？

【事務局】 LINE 登録者数は約500人。
企業紹介ガイドブックは、高校生にも進路を考えるのに役立ててもらうために全員にお配りしている。

【C 委員】 高校生の採用面接時に志望理由を聞くと、インターンシップで実際に体験してみて決めたと言っていたので、実際に体験することが大切だと思う。
今の施策は、プッシュ型の施策が多いように思う。大人が考えても分からないと思う。押しすぎるよりは、高校生が何を求めているのか、どんな情報が継続的にはいつてきたら、地元に戻って就職しようと思うのか、高校生に聞いてみたらいいのではないか。

【D 委員】 以前、他の地域ではあるが、商工会の方と協力して、体育館を開放して、地元企業にきてもらい、ブースを作ってPRしてもらったことがあった。求人票では分からない、企業の魅力を感じることができ、驚きを覚えている。やはり、見て、体験することが大切だと思う。

【E 委員】 篠山鳳鳴高等学校では、進学する子が多く、高校卒業して就職する子は少ない。現在は、地域の課題を調べて探求する授業

を行っている。地域の課題を調べることで、自分たちの中に残っているのも、地元に戻って就職する子もでてくるのではないかな。

コロナ禍を経験し、就職についての考え方が変わっている。大学の入試も変わっている。今は、終身雇用ではなく、能力を活かし、転職、ステップアップする子が多い。一方、県外に就職した子でも地元愛が強く、帰ってくる子もいる。今までとは違う若者の動きがあるのではないかな？意識が変わってきている。

【委員長】 意識が変わってきているのは、私も実感する。

【F 委員】 子どもたちの考え方について、地元就職する子は、実家から通うことで、少し給与が低くても、カバーできる。趣味や福利厚生を重視する傾向もある。仕事内容で決めたという割合も高い。自分の子どもは、最終的には地元に戻るといっている。しっかり将来設計を考えていると思う。

【G 委員】 LINE ではどんなことが発信できるのかな。

【事務局】 LINE は、簡潔に載せないとみてもらえないので、求人情報にリンクするアドレスをつけて発信している。そのほかにもイベント情報等があったら、発信している。

【G 委員】 地元から出ていった方に帰ってきてもらうために、LINE は就職情報だけでなく、地元の情報を流す方が登録者数は増えるのではないかな。

【委員長】 もともと仕事情報サイトの LINE があり、そのあとで、市の公式 LINE ができた。市の公式 LINE では、イベント情報等も発信している。あまり、LINE を送る回数が増えると嫌がられるということもあるので、内容等も含めて考えさせていただけたらと思う。

【H 委員】 しごと情報サイトは登録されている企業の求人が掲載されており、ハローワークの全部の求人情報が載っていないので、データが偏る傾向がある。載せる企業を増やし、仕事を選ぶ決定打

となるような情報を積極的に載せたい。

また、移住相談を受ける中で、職を変えたいという移住者も多い。都会では、インディード等の求人サイトを見て仕事を探すのが、篠山の情報は載っていない。丹波篠山市での就職情報は、ハローワーク主流であるということをもっと PR したい。

【C・G 委員】 求人サイトは、掲載費が高いため、企業としても出しにくい現状がある。

【I 委員】 仕事を探すなら、ハローワークのインターネットサービスがあり、全国のハローワーク求人を検索することができる。実際に、ハローワーク篠山の窓口においても若年者の来所が減少傾向にある。仕事を探す場合、スマートフォンでも見ることができるので、ハローワークインターネットサービスを是非利用してほしい。

【B 委員】 市内の企業は若者に就職してほしいと考えているのか。どのぐらいの割合で丹波篠山市在住の従業員がいるのか。

【C 委員】 安定して採用できるのは新卒。従業員は、半分ぐらいが市内在住で篠山、三田市・丹波市がほとんど。

【G 委員】 従業員は、7割が丹波篠山、2割が近隣（丹波市・三田市）で1割が神戸。

デューダ、マイナビ、エン・ジャパンを利用しているが、6週間で60万円ぐらいかかる。募集方法も、職種ごとにしななければいけないため、企業としても費用面を考えると頻りに募集をかけづらい。市の「しごと情報サイト」はずっと掲載させてもらえるので、企業としては大変ありがたい。

【C 委員】 インターネットの求人サイトでは契約社員で募集しても正社員募集に負けてしまうので、応募はほとんどない。

【J 委員】 今の若い子は、自分の生活も大切にしたいという考えを持つ方が増えているので、福利厚生やワークライフバランスが整っている企業であることをアピールしていくことも大切だと思う。

国や県から認定を受け、PR することでもっと興味をもって見てもらえるのではないかと思う。

【A 委員】 高校中退や大学中退で家に閉じこもってしまっている子もいる。そういう子たちも就職できるようにしてほしい。

【委員長】 引きこもりの子に対する支援は、なかなか難しく、一度に解決するものではないので、少しずつ、担当部署や民生委員さんにも相談しながら進めていく必要がある。

【I 委員】 兵庫型の奨学金支援制度については、どれぐらいの企業が利用しているのか。

【事務局】 市内では、4社が利用している。
もっと制度をPRし、大学卒業者の採用にも役立てていただけるようになればと考えている。

【委員長】 コロナ禍を経て、価値観や働き方が変わってきたところを踏まえ、もう少し、高校生に対して何が有効なのかリサーチが必要であるというご意見をいただいた。また、地元で働くメリットをもっとPRし、情報を届ける必要がある。特に、LINE の内容等については検討する必要がある。

ハローワークの求人についても、インターネットサービスを利用してほしい。

インターンシップなどのように実際に体験することが就職につながるので、そういった取り組みはとても大切である。

【事務局】 実際に体験することが大切であるということ踏まえ、キャリア教育出前講座やしごと探求フェアなどを実施している。本日いただいた意見を参考に、アンケート内容やLINE の内容についても考えていきたい。

8. その他

9. 閉会

副委員長あいさつ